

「防犯防災総合展2025」参加報告

令和7年4月16日～18日インテックス大阪にて開催。17日に参加いたしました。

セミナー演題「個別避難計画の作成で考えられる課題」

講師は ADI 災害研究所理事長 伊永 勉氏

1. 災害から高齢者等の犠牲を減らす視点を見直す

視点1 要支援者と家族の「マイ避難計画」の作成（マイタイムライン）

視点2 顔の見える小規模の地域で、地域の集団支援を進める

視点3 要介護者を増やさない

* 助けてもらう計画ではなく、助かるための計画である。（要支援者が何をしてほしいか）

2. 地域の避難訓練に、要支援者も参加させる。

具体的な支援内容や配慮が理解できて個別避難計画につながる。

支援したいけど約束できない、支援者名簿に名前を書くのに躊躇するケースが多く、集団での支援、みんなで避難計画を立てることが大事。

3. 民生委員、児童委員、福祉専門職等により、要支援者の支援内容を個別に把握する

5. 避難所の受け入れ環境を充実

要配慮者スペース、{トイレ} を最優先に考える、福祉避難所の周知等

6. 在宅避難者への支援を考える

在宅避難の停電、断水等への地区での支援

在宅サービス利用者等に災害時に利用できる体制作り

避難できない、避難しない要支援者の対応を考える。（家族の対応が必要）

地域の避難訓練に要支援者とその家族が参加することで支援内容を共有できる。

民生委員等が知っている情報を地域共有し、個別避難計画を作成する。

木津町区としても、各自治会、町内会単位での避難訓練を、要支援者も含めて実施する方向で進めてきたいと思います。

展示会ですが、防災関連で多く展示されているのが、トイレ関連グッズでした。

また、印象に残ったものとして、折り畳み避難ベッド、避難ルーム（二人用、個人用）等で、行政が備蓄すべき、避難所用品と思われます。

ロート製薬が、循環備蓄食品の開発をされているのも驚きでした。

会議・医療施設等への「うたと音楽のチカラ」を届ける、第一興商等多くの展示を見学いたしました。

令和7年4月18日

木津町区自主防災会 田中 芳久

